

戸部に神奈川奉行所の設置 新しい時代の幕明けと共に

顧問 田村 泰治

一、神奈川奉行所の設置

安政元（1854）年、日米和親条約の締結、四年後の安政五（1859）年に締結した修好通商条約によって横浜は世界に開かれた国際港都となった。その横浜地区を含む神奈川の地を統括する役場を戸部紅葉坂に「神奈川奉行所」または別称「戸部役所」を設置し、港灣・居留地・内地住民の治安管理や行政業務を担当し、そこに勤務する吏員を村に建てた官舎に居住させた。

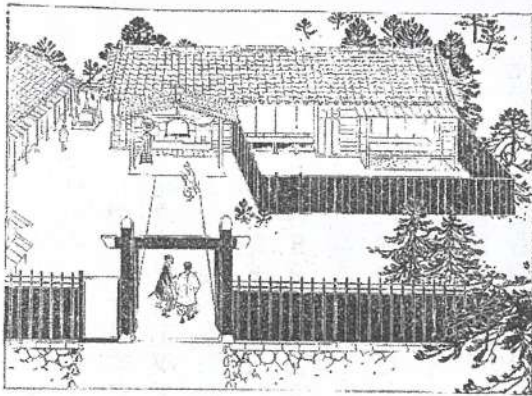
二、戸部にできた奉行所の施設

幕府の行政機関であるので警察関係の一端として『監獄』・留置所・処刑場・見せしめ場等も設置された。

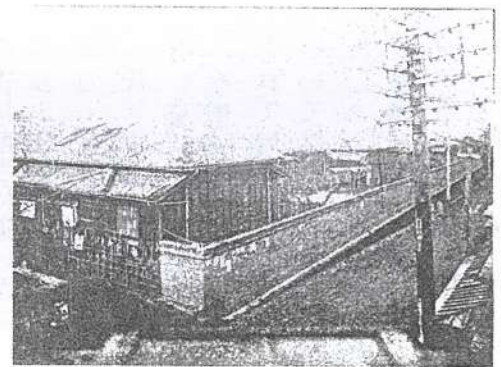
当初、奉行所は建設が間に合わないため、ほどがや道近くの願成寺に臨時に置かれ、関連施設として、坂道脇に『戸部監獄（現在の

刑務所）』を設置し、坂下に「戸部関門」が置かれ、横浜湊に働きた住民や不平士族の犯罪行為等を取り締まった。

開港地が整備されるのに伴い国内、外国人の犯罪も増加したため、この業務にかかわる役人を士族から看守役として募集した。このため近くに官舎が建てられた。



神奈川奉行所（戸部役所）横浜開港五十年史より



戸部牢屋敷（監獄）跡 横浜開港五十年史より

三、開港と監獄業務

戸部監獄舎は以前、開港した伊豆下田の獄舎二棟を解体移築したもので、規模の大きい横浜では間に合わず増築し、外国人犯罪者の収監する施設では相応しくないと領事からの抗議から特別に現在の中華街付近の加賀警察署近くに庭つきの長屋風の施設を作った。外国人裁判権が日本になかった時であったためであった。

戸部監獄は明治五（1872）年、檻倉・獄舎等を増築し、官舎を戸部、紅梅町（現在の戸部本町）に置き、更に明治一三（1885）年、民有地を統合し百二十三坪余広さに拡大、西洋式の赤レンガ造りの二階建て獄舎10棟を新築し

た。その壮観さが評判になり観光地になってしまったという。明治三十（1897）年、根岸橋際に監獄（刑務所）を移転したため、この地は県営の集合住宅団地となり、改前には敷地に赤レンガの土台が散見されたが再度の改築で姿を消してしまった。現在は三角公園に井戸跡、小さな社があるだけである。坂上の道路わきに刑死した者を吊う石碑、旅人が刑死者を悼み、私費を投じて建てられていたが道路拡張にともない、平沼一丁目、久成寺門前に移されている。また、幕末の政治混乱期に横浜で捕らえられ処された尊王攘夷派の不平士族の墓が願成寺墓地にあり、眠っている。



久成寺脇に移された処刑者の慰霊塔

参考文献 横浜市史・神奈川県史・横浜市稿横浜開港五十年史・横浜沿革誌 など

令和八年度 前期 事業計画

令和八年四月～八年九月

□歴史散歩（前期一回）

・五月二日（土）東神奈川から桜木町まで歩く

【神奈川台場跡・浅野ドック跡・横浜ドック跡を訪ねる】

集合：京急東神奈川駅二階改札前デッキ 9時30分

講師 関根 啓二

□定例講座（戸部コミュニティハウス 十四時～）

・四月二十五日（土） *総会後の特別講演*

戸部の神奈川奉行所について 講師 鶴沢 秀男

・五月二十三日（土）

小机城と久野北条氏（幻庵） 講師 麻生 民次

・六月二十七日（土）

近藤芳助の書翰 講師 鶴沢 秀男

・七月二十五日（土）

司馬遼太郎と横浜 講師 湊 和博

・九月二十六日（土）

獅子文六と横浜② 講師 関根 啓二

横浜西区郷土史研究会 会報 第六六号

発行日 令和八年四月一日

発行者 横浜西区郷土史研究会会長 鶴沢秀男

編集者 鶴沢秀男 田村泰治 山口精一

麻生民次 関根啓二

会報年二回発行 四月一日・十月一日